



保健師だより



検診を受けて がんを防ごう！

1981年以来、日本人の死因の第1位である『がん』。日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人ががんで亡くなっています。がんを防ぐには、がん検診は欠かせません。検診で初期の段階で発見し適切な治療を受ければ、大切な命を守ることができます。

2015年には すべてのがんのトップに

女性よりも男性がかかりやすい大腸がん。罹患率、死亡率ともに男性は女性の2倍です。治療しやすいがんですが、患者数は増加傾向にあり、2015年にはすべてのがんの中で最も多くなると推定されています。

村でも、大腸がんにかかる方が年々増加傾向にあります。検診を受けて早期発見に努めましょう。

症状

発生場所により大腸がんの症状は異なります。直腸や左側結腸では、排便に関する症状が多く、血便が多く見られます。痔と勘違いしやすい症状も多く注意が必要です。右側結腸は、症状がありません。

直腸・左側結腸

- 血便
- 便が細くなる
- 残便感
- 腹痛
- 下痢と便秘を繰り返す

右側結腸

- 腹痛
- 血便
- 貧血
- 便秘

検査方法

大腸がん検診は一般的に「問診」と「便潜血検査」が実施されています。便潜血検査は、便の中に含まれる血液を探り、大腸内の出血の有無を調べる検査です。この検査だけでは、大腸がんがあるかどうかはわかりません。陽性と判定された方は必ず精密検査を受けるようにしましょう。

村では、大間病院での個別検診を実施しています。がん検診は40歳以上の方を対象に12月27日まで行っていますので、まだ検診を受けていない方は、大切な命を守るためにも検診を受けましょう。

ノロウイルスにご用心！

家庭でも施設でもお店でも感染予防策を徹底しましょう！！

「食中毒といえば夏」と思っていないですか？ 確かに夏は、細菌類による食中毒は増えますが、食中毒の件数、患者数ともにもっとも多いのは冬です。

その原因のほとんどを占めるのが、**ノロウイルス**。わずか100個以下のウイルスでも感染するほど強い感染力で、「食品から人」だけでなく「人から人」にも感染するのが特徴です。

抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では発症・重症化しやすく、死に至ることもあるため、特に注意が必要です。

症状

ノロウイルスによる食中毒、感染性胃腸炎では、吐き気、おう吐、下痢、腹痛、軽い発熱などの症状が表れます。ノロウイルスに感染しても、発症しなかったり、軽いカゼのような症状ですむ方もいますが、乳幼児や高齢者などの抵抗力の弱い方の場合、重症化することが多いので、注意しましょう。

発症または感染の疑いがあるときは…

すぐに、医師に診察してもらい、治療を受ける必要があります。ノロウイルスに特効薬やワクチンはありません。水分と栄養補給による対処療法で、脱水や体力の消耗を防ぎながら回復を待つことになります。

